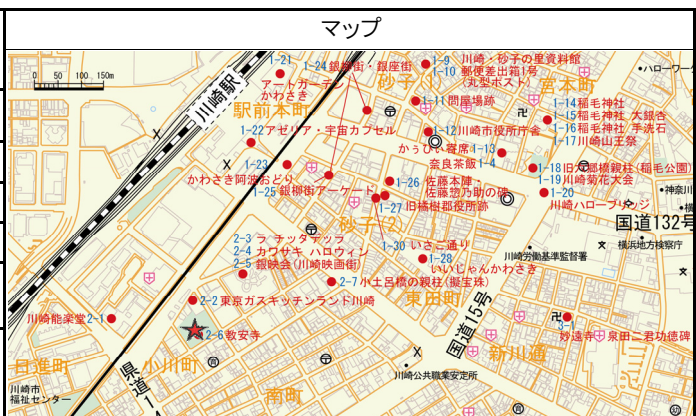


かわさき区の宝物シート

宝物No.	きょうあんじ 教安寺		
2-6			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	
目的	☒ 観る ☐ 遊ぶ・体験する ☐ 食べる ☐ その他		
宝物定義	☐ ものづくり ☐ イベント・祭り ☐ 味づくり ☐ にぎわい ☐ 現代の文化的なもの ☐ 港めぐり ☒ 歴史的なもの ☐ 人物		



所在地	川崎区小川町6-2
問い合わせ	教安寺
TEL	044-222-4946
FAX	044-222-1257
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩5分



基礎情報

■天文22年(1553)に創建の浄土宗の寺。本尊は阿弥陀三尊立像。境内には、江戸中期に庶民から「生き仏様」と敬われた徳本上人の六字名号碑がある。また江戸時代に鑄造された貴重な梵鐘も残されており、寄進を行った多くの人々の名前が刻まれている。

由来・エピソード

■徳本上人は江戸時代中期の浄土宗の高僧。教安寺境内に2基の碑があり、塩浜にも大きな碑が残っている。徳本上人の教えは、浄土宗の教義である「南無阿弥陀仏」の六字名号を唱えれば極楽浄土にいけるというシンプルなもの。信者になって一日に何回唱えたかを自己申告すれば、その回数により様々な賞品(名号書)がもらえたという。中には六万回唱えた人もいたと伝えられている。

■現在川崎市内には江戸時代につくられた梵鐘は3つしか残っていない。そのうちの1つが教安寺の梵鐘で文政12年(1829)の鑄造で、大変貴重なものである。戦時中には多くの寺の梵鐘が武器の材料として集められ溶かされたが、教安寺の梵鐘は戦時中、市役所に保管されたことで難を逃れた。空襲などで電気が止まった時に備え、梵鐘をサイレンとして使おうとしたのである。

■山門前左側に建っている石灯籠は、宿内安全、天下泰平を祈願して、川崎宿の富士講の信者が天保11年(1840)に建立したもの。江戸時代後期、江戸で富士山に弥勒の浄土を求めた新興の庶民信仰の「富士講」が関東一円に広がった。富士講の有力な先達であった堀の内村出身の西川満翁が組織したタテカワ講によるものである。

補足・その他

--

関連シート

(1-12)川崎市役所市庁舎
